

平成30年度

福井県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

平成30年5月

福井県教育委員会

平成30年度福井県立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

○推薦入学、連携型中高一貫教育校入学者選抜、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、次のとおりである。()内は、前年度のものである。

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	879(915)		879(915)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	90(101)		90(101)
第1次学力検査によるもの	3,977(4,214)	159(206)	4,136(4,420)*
第2次学力検査によるもの	18(21)	28(27)	46(48)
計	4,964(5,251)	187(233)	5,151(5,484)
募集定員	5,092(5,345)	480(460)	5,572(5,805)
充足率	97.5%(98.2%)	39.0%(50.7%)	92.4%(94.5%)

*第1次学力検査合格者4,136人の実用英語検定試験取得状況は、次のとおりである。

合格者	3級	準2級	2級以上	3級以上の取得級なし
4,136	1,759	731	82	1,564

○全日制の第1次学力検査合格者3,977人(前年度4,214人)に関する教科別の平均点は、次のとおりである。()内は、前年度のものである。

	選択問題A	選択問題B
英 語	40.9(54.3)	57.8(54.3)
数 学	53.0(41.7)	58.6(41.7)
	共通	
国 語	61.9(66.5)	
社 会	55.4(49.5)	
理 科	47.5(52.1)	
総 点	275.4(264.1)	

※英語および数学は大問4～6問のうち1～2問を次の2種類の選択問題として実施

A：基礎力を問う設問の割合が多い問題 (選択した合格者1,157人)

B：記述・論述型の設問の割合が多い問題 (選択した合格者2,820人)

※英語の平均点には実用英語検定試験取得による加点は含まれていない。

国語

1 H30年度入学者選抜（調査人数 469人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率	
一	(一)	a	2	1.91	95.74%	0.00%	
		b	2	1.43	71.43%	0.43%	
	(二)	○	4	1.24	23.03%	3.84%	
	(三)		2	1.58	78.89%	0.00%	
	(四)	○	4	2.68	53.73%	1.49%	
	(五)		3	2.28	76.12%	0.21%	
	(六)		3	1.00	30.92%	6.82%	
	(七)		3	1.40	46.48%	1.28%	
二	(一)	①	2	1.88	94.24%	0.00%	
		②	2	1.72	86.14%	0.43%	
		③	2	1.98	98.93%	0.43%	
		④	2	1.42	71.00%	5.33%	
		⑤	2	1.76	88.06%	3.84%	
		⑥	2	1.45	72.71%	11.51%	
		⑦	2	1.64	81.88%	4.48%	
		⑧	2	1.04	51.81%	8.10%	
三	(二)		2	1.71	85.29%	1.07%	
	(一)		2	0.91	44.78%	0.00%	
	(二)	○	5	3.16	28.78%	3.62%	
	(三)		3	2.00	66.74%	0.43%	
	(四)		3	0.85	27.93%	16.42%	
	(五)	○	4	1.39	27.93%	14.71%	
四	(六)		3	2.23	74.41%	1.49%	
	(一)	○	4	1.38	8.10%	7.89%	
	(二)		3	2.39	79.74%	0.85%	
	(三)		3	1.00	33.48%	0.64%	
	(四)	a	○	3	1.77	52.88%	13.01%
		b		2	0.25	12.37%	11.94%
c		○	3	1.34	29.21%	16.63%	
五	a	○	2	2.07	84.65%	1.07%	
	b	○	4	2.93	48.19%	1.07%	
	c	○	5	2.93	20.04%	1.07%	
	d	○	2	1.20	46.70%	1.07%	
	e	○	2	1.05	43.15%	0.90%	
合計				60.76			

※20%未満に網掛 ※15%超過に網掛

2 全体概要

<p>良好</p> <p>○接続詞の働きを理解し、文章の中で概ね使い分けることができる。 大問一（一） a</p> <p>○中学校までに学習した漢字について、概ね正しく読み、書くことができる。 大問二（一）①～③、⑤、⑦</p> <p>○行書の書き方の基礎を理解し、作品の中でその特徴を指摘することができる。 大問二（二）</p> <p>課題</p> <p>●文章に描かれた情景を理解し、適切に記述することに課題がある。 大問四（一）</p> <p>●中学校までに学習した和歌の表現技法を理解し、解釈の場面に生かして内容を読み取ることに課題がある。 大問四（四） b</p> <p>●言葉と言葉とのつながりを意識し、論理の展開に沿って内容を読み取ることに課題がある。 大問一（二）</p>
--

3 問題の概要

大問一	<p>説明的な文章 「池上高志・石黒浩『人間と機械のあいだ 心はどこにあるのか』」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットと人間との「対話」を例に、「心」とはどのようなものかについて説明した評論 ・文脈に即して筆者の主張を読み取り、再構成して表現する力を求めている。
大問二	漢字・書写	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校第3学年までに学習した漢字について読むこと、小学校第6学年までに学習した漢字について書くことを求めている。 ・書写の基本的事項（行書の特徴と仮名との調和）の理解を求めている。
大問三	<p>文学的な文章 「野口卓『一九戯作旅』」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作家仲間との会話をきっかけに、「自分が書く」ことの原点に気付いていく十返舎一九の心情を描いた文章 ・本文の描写に即して登場人物の心情を丁寧に読み取る力を求めている。
大問四	<p>古文 「小沢蘆庵『六帖詠草』」</p> <p>会話文 生徒と先生の会話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌とその成立事情について述べた古文と、その古文を学習している生徒と先生の会話 ・会話文を手がかりとしながら内容を読み取り、的確に表現する力を求めている。
大問五	<p>作文 「歩道の周辺環境にふさわしい機能をもった街路樹として植えたい樹木について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに、街路樹としてふさわしい樹木についての自分の意見を書く作文 ・3つの資料をもとに、目的に応じて必要な情報を読み取り、自分の意見を論理的に展開し、適切に表現する力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】文章に描かれた情景を理解し、適切に記述することに課題がある。

大問四（一） 正答率 8. 1% 無答率 7. 89%

四 次のAは、歌の成立事情を述べた前書きとその和歌であり、Bは、これを学習している二人の生徒と先生が話している場面である。これらを読んで、あとの問いに答えよ。

A

東南に高き松あり、異木にすぐれていとめでたし。中つ枝より下つ方、しらかしのいとしげく茂りて、いぶせかりければ、枝を払ひ削ぎけるに、松の姿いとよく見えていと目もかれず、なすべきわざも忘れて見る見る思ふに、詩などには十八公と文字によりていへることもあり、げにおぼゆれば、なすまらず目も離せず、するべきこと、木の名前、うつつうしかったので、十八歳の人

二十年に二年

君見れば我も若えし心地こそすれ

（小沢蘆庵『六帖詠草』による）

B

青山 「松」の漢字を分解して「十八公」と表すことを、作者はなぜ「なるほど」と思ったのかな。
 黒川 それはきつと、作者が松の木に、若々しい、というイメージを持っているからだと思うよ。
 青山 そうか。だから実際に作者が見ているのは成熟した松の木なのに、「私も（a 十字以内）」と詠んだんだね。
 先生 そうですね。実は、この作者は、若い松の木も題材にして、次の歌を詠んでいますよ。
 「生ひそめてまだ二葉なる苗なれど千世まつの木と見ればたのものし」
 青山 「生まれてまだほんの二葉に過ぎない苗」と詠んでいるから、これは本当に若い松の木ですね。
 先生 はい。でも、「千世まつの木」の「千世」は千年という意味で、この若い「松の木」は、これから「千年もの長い時間を（b 漢字を含めて二字）木」だから将来が楽しみだと詠んでいますよ。
 黒川 二通りの意味を重ねることで、千年後のどっしりとした姿まで想像させるのがおもしろいですね。
 先生 他にも、春の花や秋の紅葉も「松の緑に及ぶ色はない」という、松の緑を賞賛する、次の歌も詠んでいますよ。
 「春秋の花も紅葉も一さかり松の常磐にしく色ぞなき」
 青山 どうして松の緑のほうがすばらしいというのかな。
 黒川 辞書を引くと、「常磐」には「常葉」という意味もあったよ。作者は、春の花や秋の紅葉の盛りが一時期であることに比べて、松の緑は（c 十字以内）をほめているんだと思うな。

大問四（一） 傍線の部分1について、どのような状態がうつつうしかったのか。三十字以内の現代語で書け。

【解答例】 松の中の枝から下の方に、しらかしがとても茂っている状態。（28字）

〈誤答分析〉

- ・傍線の部分1の直後に、「枝を剪定したところ、松の姿がよく見えて……」という内容が続くので、筆者は、しらかしが生い茂って、松の木の姿を覆い隠している状態を「うっとうしい」と感じていたことがわかる。そこで解答は、傍線の部分1の直前の言葉を手がかりに、必要な主語等を補って説明すればよいのだが、誤答には「松」あるいは「しらかし」といった主語を明記していなかったり、「松」と「しらかし」との位置関係を誤って捉えたりしているものがあった。
→言葉を手がかりとして、筆者の目を通して見える情景を頭の中で映像化することができない。また、「松」と「しらかし」の2つの位置関係について、適切に言葉で説明できない。

〈今後の指導のポイント〉

- ・目的に応じて必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連づけたり整理したりしながら、言葉で的確に表現する学習が求められる。
(参考)・1人称で書かれた物語を3人称で書き換えることで、1人称の人物(主人公)の心情や見ている情景を正確に伝える学習(「SAS A2016 報告書」p96)
 - ・詩・短歌・俳句の内容や表現上の特徴等を踏まえ、情景を絵に描かせたり、反対に、絵や図、写真等に描かれているものを文章化させたりする学習。また、絵や図、写真等に描かれているものを文章化した後、別の生徒がその文章を読んで再び絵や図に描く等して、ペアで文章を評価し合う学習
 - ・意見や事実とその根拠を整理する「くらげチャート」や、論理の展開を意識するための「ステップチャート」等の思考ツールを用いて、情報を視覚化し整理する学習(『こうすれば考える力がつく! 中学校思考ツール』田村学・黒上晴夫著/小学館)
 - ・登場人物の心情変化について、変化前と変化後、変化を引き起こすきっかけとなった事柄について、図式化したり文章化したりして説明する学習
- ・古典の学習の際には、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思い等を想像することが大切である。その際、小学校での学習も踏まえ、古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章を用いたり関連する本や文章などを紹介したり、また音声や映像メディアを活用したりする等、指導上の様々な工夫が求められる。(平成29年度全国学力・学習状況調査「解説資料」p54)

【課題②】中学校までに学習した和歌の表現技法を理解し、解釈の場面に生かして内容を読み取ることに課題がある。

大問四 (四) b 正答率 12.37% 無答率 11.94%

四 次のAは、歌の成立事情を述べた前書きとその和歌であり、Bは、これを学習している二人の生徒と先生が話している場面である。これらを読んで、あとの問いに答えよ。

A

東南に高き松あり、異木にすぐれていとめでたし。中つ枝より下つ方、しらかしのいとしげく茂りて、いぶせかりければ、枝を払ひ削ぎけるに、松の姿いとよく見えていとど目もかれず、なすべきわざも忘れて見る見る思ふに、詩などには十八公と文字によりていへることもあり、げにおほゆれば、なすまらず目も離せず、するべきこと、木の名前、十八歳の人

二十年に二年 君見れば我も若えし心地こそすれ

はたとせ ふたとせ なるほどと思われるので 若返つた

(小沢蘆庵『六帖詠草』による)

B

青山 「松」の漢字を分解して「十八公」と表すことを、作者はなぜ「なるほど」と思ったのかな。
 黒川 それはきつと、作者が松の木に、若々しい、というイメージを持っているからだと思うよ。
 青山 そうか。だから実際に作者が見ているのは成熟した松の木なのに、「私も（a 十字以内）」と詠んだんだね。
 先生 そうですね。実は、この作者は、若い松の木も題材にして、次の歌を詠んでいますよ。
 「生ひそめてまだ二葉なる苗なれど千世まつの木と見ればたのもし」
 青山 「生まれてまだほんの二葉に過ぎない苗」と詠んでいるから、これは本当に若い松の木ですね。
 先生 はい。でも、「千世まつの木」の「千世」は千年という意味で、この若い「松の木」は、これから千年もの長い時間を（b 漢字を含めて二字）木だから将来が楽しみだと詠んでいます。
 黒川 二通りの意味を重ねることで、千年後のどつしりとした姿まで想像させるのがおもしろいですね。
 先生 他にも、春の花や秋の紅葉も「松の緑に及ぶ色はない」という、松の緑を賞賛する、次の歌も詠んでいます。
 「春秋の花も紅葉も一さかり松の常磐にしく色ぞなき」
 青山 どうして松の緑のほうがすばらしいというのかな。
 黒川 辞書を引くと、「常磐」には「常葉」という意味もあつたよ。作者は、春の花や秋の紅葉の盛りが一時期であることに比べて、松の緑は（c 十字以内）をほめているらんだと思うな。

大問四 (四) B の空欄 bに入る適当な言葉を、指示された字数の現代語で書け。

【解答例】 待つ（漢字を含めて二字）

〈誤答分析〉

- ・先生と黒川さんとの会話を手がかりとして、「千世まつ木」の「まつ」が掛詞になっていることに気づき、和歌には、若い「松の木」と「千年もの長い時間を待つ木」という二通りの意味が重ねられていることを読み取ることができない。誤答には、「見る」「育つ」「茂る」「二葉」「長寿」等、直前の「長い時間を」や後の「木」に全くつながらない表現があった。
→和歌の表現技法に関する知識を生かし、その働きを理解した上で、和歌に表れた情景を読み取ることができない。

[全国学調・SASAで指摘された課題]

- ・平成 29 年度全国学力・学習状況調査
B **1** 三（表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができる） 50.7%

〈今後の指導のポイント〉

- ・授業で何ができるようになったのか、身に付けた知識・技能を生徒自身が実感できるように、また身に付けた知識を生かして、作品の内容について思考した過程を客観的に捉えることができるように、自らの言葉で表現する「振り返り」の時間を授業の中で保障することが求められる。
（参考）・単なる授業の感想ではなく、授業のねらいに合わせてノートに「振り返り」を書く。
（「SASA2017 報告書」p91）
- ・掛詞や序詞等、授業で学習した表現技法の知識を踏まえながら、作品に表れたものの見方や考え方について正確に読み取り、その内容を説明したり評価したりする学習が求められる。
（参考）・教科書に掲載されている和歌を用いて掛詞について学習した後、掛詞で表現されている 2 つの内容についてそれぞれ絵に表し、和歌の解説文を書く学習（「SASA2016 報告書」p97-98）
 - ・同音異義語を集め、掛詞を使った現代版言葉遊びとして、駄洒落集を作成する学習。
 - ・学習した表現技法を用いた和歌や短歌を作り、ペアやグループで、用いられている表現技法を説明し合い、和歌や短歌の解説文を作る学習

【課題③】言葉と言葉とのつながりを意識し、論理の展開に沿って内容を読み取ることに課題がある。

大問一（二） 正答率 23.03% 無答率 3.84%

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

コミュニ（CommU）は、二体以上で対話をするというロボットである。実際に、三体のコミュニと一人の人間がしゃべるというプロジェクトをやっているが、ここに参加すると異なる対話感があるというのは、参加した誰もが言うところである。コミュニは、じつは音声認識をまつたくしないのだが、¹普通に対話している感じになる。

対話とはストーリーの展開のことである。²いまのところ、はじめから違和感なくロボットと対話できる人は限られているだろうが、二体で対話しているような感じのロボットが近くにいて、時々こちらをちらっと見たりしたらどうだろう。ほとんどの人がそこにストーリーを想定し、対話に巻き込まれていくはずだ。

a、あなたは英語がろくにできないとしよう。一緒にいる二人が英語で話していて、時々こちらを見てニコツとする場面を考えてみてほしい。自分も会話に参加している気分になるのではないだろうか。つまり、対話というのは、その「内容」だけで成り立っているのではない。「ストーリー」がどこかで展開している状態を作ることによって、対話感が高まるのである。

同じような原理で、複数体のロボットを持ってきて、ロボット間で学習しあったり協調したりするような動作が出てくれば、まさにロボットがロボットの言語で対話しているような感じがするはずだ。そして、そういう社会的な様子を見せられると、人間は急に「人間らしさ」をロボットに感じるようになるのではないかと思う。

（池上高志・石黒宏『人間と機械のあいだ 心はどこにあるのか』の文章による）

大問一（二） 傍線の部分1について、参加者がこのような感じになるのはなぜか。解答欄の書き出しに続けて十五字以内で書け。ただし、書き出しの言葉は、字数に含めない。

【解答例】 （参加者が、）ストーリーを想定するから。（14字）

〈誤答分析〉

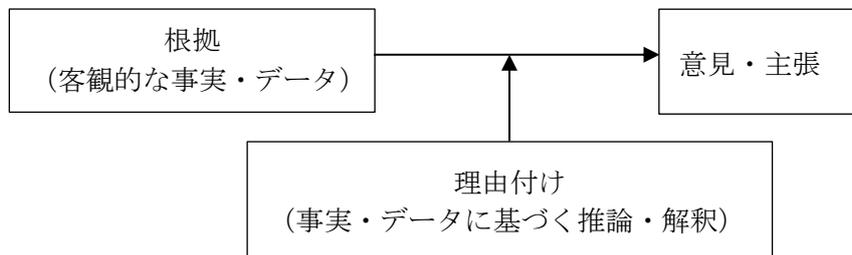
- ・傍線の部分1に含まれる「感じになる」とは「参加者」の印象を表現した言葉であり、「対話している」という事実を表す表現とは異なる。この2つの違いを区別できていないため、適切に理由を答えることができず、傍線の部分を言い替えただけの「対話に巻き込まれていくから」という誤答が多く見られた。また、筆者が「対話」について定義している叙述や、傍線の部分直前の「(コミュニーは)音声認識をまったくしない」という叙述、そして後段にある英語の例を踏まえ、ロボットは実際に「対話」をしているわけではなく、「参加者」が一方的にストーリーを想定しているだけだということを読み取ることができない。
- 言葉と言葉とのつながり、論理の展開を丁寧に押さえながら内容を読み取り、設問に答えるということができない。また、キーワードについて、筆者の定義と一般論とを区別して読み取ることができない。

[全国学調・SASAで指摘された課題]

- ・SASA2017 A三(三)(文章の構成や展開、表現の仕方について、正しいものを指摘することができる。) 36.2%

〈今後の指導のポイント〉

- ・文章全体の構成を考えたり、筆者の考えと例示の部分を読み分けたりして、文章の論理の展開をとらえる学習が求められる。また、「読むこと」の学習で身に付けた論理の展開や構成の工夫を「書くこと」の学習にも生かし、系統的・継続的に書く力の向上を図ることも大切である。
- (参考)・文章に表れた筆者の考えを「三角ロジック」を用いて図式化し、論理の展開を捉える学習
(「SASA2017 報告書」p77)



※三角ロジック イギリスの分析学者トゥルミンの論証モデルに由来する。論証の組み立てを「根拠・理由付け・主張(意見)」の3点セットで整理する、論理的思考・表現のためのツール

- ・段落相互の関係や論理の展開に注意しながら、文章の内容について「Q&A集」を作成し、ペアやグループで推敲し合う学習(「平成23年度全国学力・学習状況調査の問題を活用した授業アイデア例」p3-4 中学校国語)

英語A

1 H30年度入学者選抜（調査人数 150人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率	
1	(1)	ア	○	2	0.29	12.00%	26.67%
		イ	○	2	0.91	39.33%	12.67%
	(2)	1		2	1.27	63.33%	0.00%
		2		2	1.37	68.67%	0.00%
		3		2	1.41	70.67%	0.00%
	(3)		3	1.30	43.33%	0.67%	
	(4)		3	1.00	33.33%	0.00%	
	(5)		3	0.80	26.67%	0.67%	
	(6)		3	0.62	20.67%	0.00%	
	(7)	1		2	0.25	12.67%	0.67%
2			2	0.76	38.00%	2.00%	
3			2	0.93	45.33%	0.67%	
2	(1)	1		3	2.42	80.67%	0.00%
		2		3	2.06	68.67%	0.00%
		3		3	1.12	37.33%	0.00%
	(2)	1	○	2	0.15	6.67%	24.67%
		2	○	2	0.92	46.00%	4.00%
		3	○	2	1.06	47.33%	22.00%
	(3)	1		3	1.76	58.67%	1.33%
		2		3	2.01	66.67%	1.33%
		3		3	1.67	55.33%	1.33%
	(4)		○	6	1.39	6.00%	23.33%
3	(1)		3	1.64	54.67%	0.67%	
	(2)		2	0.98	46.67%	2.67%	
	(3)		3	1.38	46.00%	0.00%	
	(4)		○	4	0.92	2.67%	30.00%
	(5)		3	0.70	23.33%	0.00%	
	(6)		3	1.20	40.00%	0.67%	
	(7)	1	○	3	0.09	0.67%	36.67%
		2	○	3	0.17	2.00%	40.00%
3		○	3	0.17	5.33%	46.67%	
4		○	15	6.81	2.00%	18.00%	
合計				39.53			

※Aのみの問題に網掛(他はAB共通問題)

※20%未満に網掛

※15%超過に網掛

※大問2(4)、大問3(4)、大問4は、正答率(完答率)は低いが、中間点による得点率を考慮し、分析の対象としない。

2 全体概要

良好	
○人物の考えを読み取り、易しめの英文で要約することができる。	大問1 (2) 2、3
○対話を聞いて、要点を理解することができる。	大問2 (1) 1、2
○長めの英文を聞いて、要点を理解することができる。	大問2 (3) 2
課題	
●人物の考えを指定された語数で表現することに課題がある。	大問1 (1) ア 大問1 (7) 1 大問3 (4)
●長めの英文から、必要な情報を聞き取り、正確に表現することに課題がある。	大問2 (2) 1
●対話と資料から、必要な情報を整理し、表現することに課題がある。	大問3 (7) 1～3
●英文を聞いて、テーマに沿った内容の文章を書くことに課題がある。	大問2 (4)

3 問題の概要

大問1	長文を読んで設問に答える問題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の咲が生徒会に参加し、学校内や地域で活動した経験についての英文スピーチ ・様々な体験を通して考えたことを速く正確に読み取る力を求めている。 ・A問題とB問題で異なる問題を、10点分出題している。
大問2	放送による聞き取りの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な口調で話される会話、ペットボトルのリサイクルについての発表、学校での特別講演を聞いて必要な情報を聞き取る問題 ・福井県が住みやすい場所と言われる理由をアメリカの友達に英語で表現する問題 ・必要な情報や話の要点を聞き取り解答する力を求めている。
大問3	対話文と資料を読んで設問に答える問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「日・米・中3カ国における、若者の人生の目標の違い」についての4人の会話文 ・グラフをもとに人生の目標について意見や考えを述べており、情報を整理し正確に読み取る力を求めている。
大問4	対話文を読んで、与えられた立場での意見を英語で述べる問題	<ul style="list-style-type: none"> ・A問題とB問題で異なる問題である。 ・A問題は、自分の好きな有名人について、自分の考えを40語程度の英語で書く力を求めている。

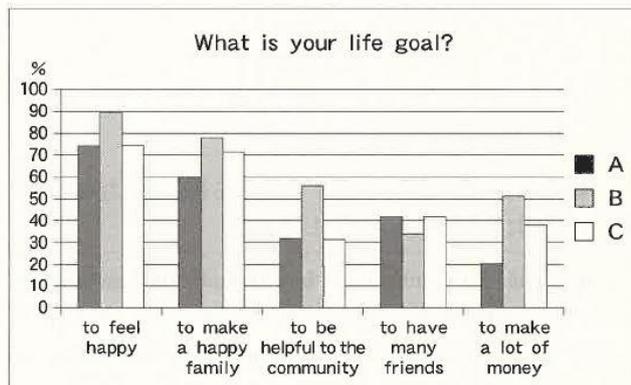
4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】人物の考えを指定された語数で表現することに課題がある。

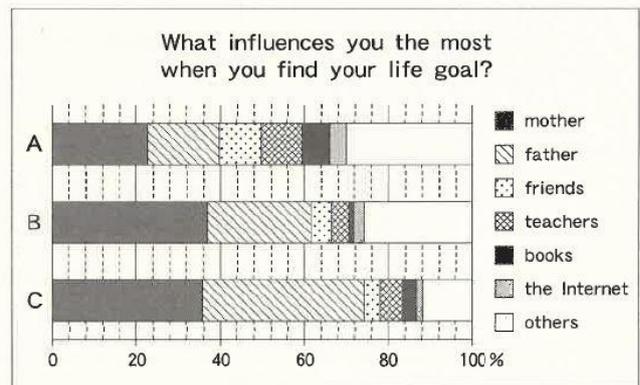
大問3 (4) 正答率 2.67% 無答率30.00%

3 絵美とアレックス、光太たちのグループが、ベーカー先生の授業で、人生の目標(Life Goal)について、グラフ(Graph)を見ながら話している。次のグラフと対話文を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、A、B、Cは、それぞれのグラフに共通する国を指す。

Graph 1



Graph 2



グラフ1は複数回答可能のため、それぞれの割合を足すと100%を超える。

国立青少年教育振興機構サイト「高校生の生活と意識に関する調査報告書 - 日本・米国・中国・韓国の比較」(H27.8)より日米中の3カ国を抜粋し編集

Mr. Baker: What is your life goal? Today, we're going to talk about life goals.

Kota: I want to make a lot of money in the future. If I have a lot of money, I can travel around the world and experience many things to broaden my horizon.

Emi: Kota, you already have your life goal. I don't have any special life goals. How about you, Alex?

Alex: I want to make other people happy. Especially, I want to help people in need in the world. For example, in Africa, many people can't go to the doctor or don't have enough food to live.

Kota: You should make a lot of money first, Alex. If you don't have money, you can't help those people.

Alex: I want to help them with my own skills. At university, I will study hard to become a doctor and learn several languages. Then I want to join an international charity group and help people in need.

Mr. Baker: I have two interesting graphs. Look at Graph 1. It shows life goals of students in three countries.

Alex: In all the three countries, the percentage of students who want to feel happy is the highest. I have thought "to be helpful to the community" is the most popular, but it isn't.

Emi: The percentages of students who want to have many friends in Japan and in China are higher than the percentage in America. That surprises me because my American friends have so many friends.

Kota: Wow! The percentage of Japanese students who want to make a lot of money is the lowest.

Emi: Kota and Alex, what influenced you when you found your life goals?

Kota: I like to read books about people who are successful in the world. I was impressed with Bill Gates the most. He made a lot of money and used the money to do many good things for the world.

Alex: I was in a hospital for a month when I was in elementary school. I met wonderful doctors. They always listened to me and gave me good advice. I decided to be a doctor like them.

Mr. Baker: I see. Great people influenced you. Everyone, look at Graph 2. We can see what influences students the most when they think about life goals.

Alex: Many students are influenced by their mothers or fathers in all the three countries.

Emi: Parents can give good advice because they know their children very well, I think.

Kota: There is a small difference. In Japan and in America, the percentage of "mother" is higher than the percentage of

"father." But in China, the percentage of "father" is higher.

Emi: People have various life goals and they are influenced by many things when they find their life goals.

Mr. Baker: That's right. If you have your own life goal, you can study harder, I think. Emi, I hope you'll find a good life goal for you. Thank you, everyone.

(注) percentage 割合 thought think の過去分詞 Bill Gates マイクロソフト社の共同創業者

(4) 次の質問に 25 語程度の英語で答えよ。ただし、符号(, . ? ! など)は語数に含めないこと。

What is Alex's life goal? And what will he do for his life goal?

【解答例】

He wants to help people in need in the world, so he'll become a doctor who speaks several languages and join an international charity group.

〈誤答分析〉

- ・対話文の中に書かれてある 4 つのポイント (help people in need / become a doctor / speaks several languages / join an international charity group) を全て含めていない生徒が多かった。
- ・語句を適切に使って制限字数内で書く力が不十分である。

[SASA で指摘された課題]

- ・SASA2016 8 観点 2 (時制や語順などの文法に従って、読み手に伝わるように表現することができる。)

10.4%

〈今後の指導のポイント〉

- ・スピーチや対話文などの英文を読み、必要な情報や人物が言いたいことを日本語でまとめる活動をおこなう。徐々にレベルを上げて、英語で表現する活動に発展させる。
→授業の中に帯活動として初見の英文を読む活動を取り入れる。英文を読ませる前に読み取りのポイントを与えておく。英文の例として、生徒の作文を添削したものや、ALT がニュースを簡単にまとめたものを用いて、筆者の言いたいことを簡単に日本語でまとめる活動や英語でまとめる活動が有効である。

(参考「SASA2014 報告書」 pp180-182 4(3) 課題を解決するための授業改善事例)

【課題②】長めの英文から、必要な情報を聞き取り、正確に表現することに課題がある。

大問2(2)1 正答率 6.67% 無答率 24.67%

2 放送による問題(この問題は、検査開始後35分経過してから行う。)

(2) 中学生のあなたは、英語の授業でペットボトルのリサイクルについての発表を聞いている。その内容をよく聞いて、次のメモ(MEMO)の(1)~(3)に、それぞれ最も適当な数字または語句を書け。

MEMO

Recycling Plastic Bottles

① Why are plastic bottles convenient? → Plastic bottles are (1). We can drink from them anywhere.

【放送原稿】

中学生のあなたは、英語の授業でペットボトルのリサイクルについての発表を聞いています。その内容をよく聞いて、問題用紙のメモの1から3の空所に、それぞれ最も適当な数字または語句を書きなさい。英文は2回読まれます。では始めます。

(—間3秒—)

Today I'll talk about recycling plastic bottles. In Japan, plastic bottles are used for many kinds of juice, tea, and water. Plastic bottles are convenient because they are easy to carry and we can drink from them anywhere. They are also eco-friendly because we can recycle them. In Japan, about 87 percent of plastic bottles were recycled in 2015. Japan was number one in the world. In the United States, about 22 percent of plastic bottles were recycled. If we recycle them, we can make many things, such as pens, clothes, and bags. There is one thing you have to remember. You can recycle only the plastic bottles with a special mark on them. If you find that mark on a plastic bottle, please recycle it in an eco-friendly way.

(—間10秒—) 繰り返します。(英文を繰り返す。)(—間10秒—)

【解答】

1. easy to carry

〈誤答分析〉

- “Plastic bottles are convenient because they are easy to carry and we can drink from them anywhere.”と放送されており、問題用紙には後半の “We can drink from them anywhere.” が印刷されている。それにもかかわらず、“useful” や “recycle” という誤答が多かった。カタカナでよく使われる「キャリー」であるが、“carry” を音声で聞いてすぐに「運ぶ」という意味が繋がらなかったため、“useful” や “recycle” など、聞いて意味がすぐわかる語を答えたと考えられる。

[SASAで指摘された課題]

- SASA2016 1(1)(自然な口調で読まれる英文を聞いて、大切な部分を正しく聞き取ることができる。) 46.7%

〈今後の指導のポイント〉

- 英文を聞いて、分かったことをノートに書き、相手(友達、ALT、JTE)に伝える。
→どのような語句がキーワードになるのか、アドバイスを与えたり、生徒に考えさせたりするとよい。

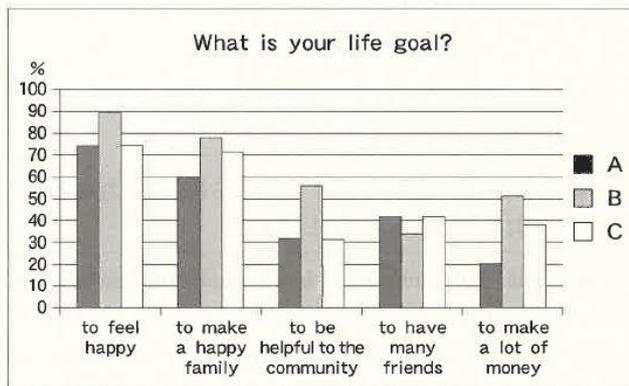
参考:「SASA2016 報告書」p180 【学習課題(例2)】教科書本文の内容を聞き、聞いて分かったことを相手に伝える学習

【課題③】対話と資料から、必要な情報を整理し、表現することに課題がある。

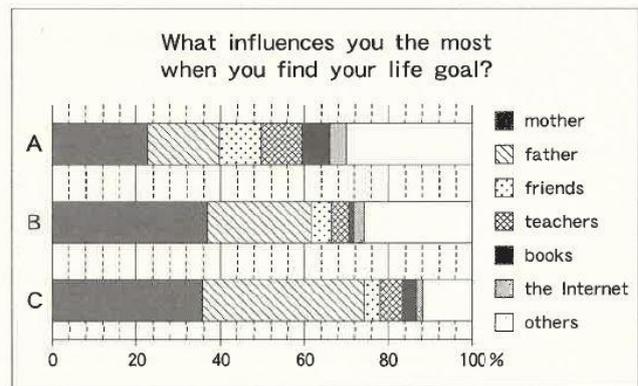
- 大問 3 (7) 1. 正答率 0. 67% 無答率 36. 67%
 2. 正答率 2. 00% 無答率 40. 00%
 3. 正答率 5. 33% 無答率 46. 67%

3 絵美とアレックス、光太たちのグループが、ベーカー先生の授業で、人生の目標(Life Goal)について、グラフ(Graph)を見ながら話をしている。次のグラフと対話文を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、A, B, Cは、それぞれのグラフに共通する国を指す。

Graph 1



Graph 2



グラフ 1 は複数回答可能のため、それぞれの割合を足すと 100%を超える。

国立青少年教育振興機構サイト「高校生の生活と意識に関する調査報告書 - 日本・米国・中国・韓国の比較」(H27.8) より日米中の3カ国を抜粋し編集

Mr. Baker: What is your life goal? Today, we're going to talk about life goals.

Kota: I want to make a lot of money in the future. If I have a lot of money, I can travel around the world and experience many things to broaden my horizon.

Emi: Kota, you already have your life goal. I don't have any special life goals. How about you, Alex?

Alex: I want to make other people happy. Especially, I want to help people in need in the world. For example, in Africa, many people can't go to the doctor or don't have enough food to live.

Kota: You should make a lot of money first, Alex. If you don't have money, you can't help those people.

Alex: I want to help them with my own skills. At university, I will study hard to become a doctor and learn several languages. Then I want to join an international charity group and help people in need.

Mr. Baker: I have two interesting graphs. Look at Graph 1. It shows life goals of students in three countries.

Alex: In all the three countries, the percentage of students who want to feel happy is the highest. I have thought "to be helpful to the community" is the most popular, but it isn't.

Emi: The percentages of students who want to have many friends in Japan and in China are higher than the percentage in America. That surprises me because my American friends have so many friends.

Kota: Wow! The percentage of Japanese students who want to make a lot of money is the lowest.

Emi: Kota and Alex, what influenced you when you found your life goals?

Kota: I like to read books about people who are successful in the world. I was impressed with Bill Gates the most. He made a lot of money and used the money to do many good things for the world.

Alex: I was in a hospital for a month when I was in elementary school. I met wonderful doctors. They always listened to me and gave me good advice. I decided to be a doctor like them.

Mr. Baker: I see. Great people influenced you. Everyone, look at Graph 2. We can see what influences students the most when they think about life goals.

Alex: Many students are influenced by their mothers or fathers in all the three countries.

Emi: Parents can give good advice because they know their children very well, I think.

Kota: There is a small difference. In Japan and in America, the percentage of "mother" is higher than the percentage of

"father." But in China, the percentage of "father" is higher.

Emi: People have various life goals and they are influenced by many things when they find their life goals.

Mr. Baker: That's right. If you have your own life goal, you can study harder, I think. Emi, I hope you'll find a good life goal for you. Thank you, everyone.

(注) percentage 割合 thought think の過去分詞 Bill Gates マイクロソフト社の共同創業者

(7) 次の英文は、授業の感想として絵美が書いたものである。英文の中の(1)～(3)に入る適当な語句をそれぞれ答えよ。

Today, I learned about life goals. Mr. Baker thinks having a life goal will help us to (1). I don't have any life goals now. From now on, I will experience many things and talk with many people to find my life goal. My parents give me good advice because they (2) well. I also learned one thing from Graph 2. I can talk with teachers, read books, and use (3) to find my life goal.

【解答例】 1. study harder 2. know me 3. the Internet

〈誤答分析〉

- ・語句を答えるという解答形式であり、選択肢から選ぶ形式よりも難易度が高かったため、無答率が最も高かった。
- ・本文中のものと異なる表現を用いた英文であるため、解答作成のヒントを本文中に見つけられなかった生徒が多いと考えられる。
- ・1の“help us to”や2の“because they”の次に入るものが動詞であることを理解できていない生徒が多かった。

[SASAで指摘された課題]

- ・SASA2016 8観点4(文のつながりや構成を考え、まとまりのある文章で表現することができる。) 24. 9%

〈今後の指導のポイント〉

- ・まとまりのある英文を読んで、概要や要点を適切にまとめて書く活動を行うことが大切である。
→情報整理をしながら、構成に注意して書く活動を行うことが有効である。

参考：「SASA2016 報告書」p189 【学習課題(例3)】物語要約文を書き、まとまりのある文章を構成する学習

- ※ 概要や要点を書く際に、初歩としては英文の語彙や表現を使ってよいが、徐々にレベルをあげて、他の語彙や表現を使わせることも有効である。

【課題④】 英文を聞いて、テーマに沿った内容の文章を書くことに課題がある。

大問 2 (4) 正答率 6. 0 0 % 無答率 2 3. 3 3 %

2 放送による問題(この問題は、検査開始後 35 分経過してから行う。)

(4) マイクの質問に対して、あなたならどのように答えるか。あなたが話す内容を 3 文程度の英語で書け。

【放送原稿】

今から対話が始まります。マイクの質問に対して、あなたならどのように答えますか。あなたが話す内容を 3 文程度の英語で書きなさい。英文は 2 回読まれます。では始めます。(一問 3 秒一)

Woman: Hi, Mike! What are you doing?

Man: I'm preparing my presentation. I'm going to talk about things I have found during my stay in Fukui. The newspaper says Fukui Prefecture is one of the best places to live. Do you know any reasons? Please tell me.

(一問 3 秒一) 繰り返します。(英文を繰り返す。)

【解答】

I think food in Fukui is so delicious that many people like to live here. Food is very important in our daily lives. Fukui's delicious food gives us a lot of energy and we can study or work hard every day.

〈誤答分析〉

- ・多くの人が日常的な生活の中で満足を感じる理由を書くことが求められているのに、福井県内の特定の場所や、特定の食べ物を理由としてあげている生徒が多かった。自分が好きな場所や食べ物というテーマが、学校でよく英作文のテーマとされることが多かったことが理由と考えられる。

[SASA で指摘された課題]

- ・SASA2016 8 観点 3 (場所と食べ物をすすめる理由を、読み手に伝わるように表現することができる。)

2 6. 4 %

〈今後の指導のポイント〉

- ・様々な目的や状況に応じて、適切な英作文を書き、相手(友達、ALT、JTE)に読んでわかるか評価してもらおう。

参考: 「SASA2016 報告書」 p188 【学習課題 (例 1)】 箇条書きの文を、つながりや話の流れを意識した「エッセイ」に仕立てる学習

英語B

1 H30年度入学者選抜（調査人数 319人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率	
1	(1)	○	4	1.67	9.72%	3.76%	
	(2)		3	2.14	71.47%	0.00%	
	(3)		3	1.99	66.46%	0.31%	
	(4)		3	2.06	68.65%	0.31%	
	(5)		3	1.86	62.07%	0.63%	
	(6)	○	6	2.50	5.96%	7.21%	
	(7)	1		2	0.91	45.45%	0.63%
		2		2	1.39	69.59%	0.63%
		3		2	1.61	80.56%	0.94%
2	(1)	1	3	2.58	85.89%	0.00%	
		2	3	2.29	76.18%	0.00%	
		3	3	1.64	54.55%	0.00%	
	(2)	1	○	2	0.71	33.54%	5.33%
		2	○	2	1.38	68.97%	0.31%
		3	○	2	1.72	84.33%	0.94%
	(3)	1		3	2.60	86.52%	0.31%
		2		3	2.73	90.91%	0.00%
		3		3	2.72	90.60%	0.00%
	(4)	○	6	2.82	6.90%	9.09%	
	3	(1)		3	2.49	82.45%	1.25%
		(2)		2	1.59	78.06%	0.31%
(3)			3	2.16	71.79%	0.63%	
(4)		○	4	1.52	0.63%	8.78%	
(5)			3	1.45	48.28%	3.13%	
(6)			3	2.04	68.03%	3.13%	
(7)		1	○	3	0.59	9.40%	20.06%
		2	○	3	0.66	9.72%	19.75%
		3	○	3	0.76	21.94%	26.65%
4		○	15	7.19	1.88%	3.76%	
合計				57.79			

※Bのみの問題に網掛(他はAB共通問題)

※20%未満に網掛

※15%超過に網掛

2 全体概要

良好	
○人物の考えを読み取ることができる。	大問1 (2) 大問1 (7) 3
○対話や英文を聞いて、要点を理解することができる。	大問2 (1) 1、2 大問2 (2) 3 大問2 (3) 1～3
○英文と資料を読んで、要点を理解することができる。	大問3 (1)
○対話を読んで、要点を理解することができる。	大問3 (2) (3)
課題	
●長めの英文から、必要な情報を聞き取り、正確に表現することに課題がある。	大問2 (2) 1
●人物の考えを指定された語数で表現することに課題がある。	大問3 (4)
●対話と資料から、必要な情報を整理し、表現することに課題がある。	大問3 (7) 1、2

3 問題の概要

大問1	長文を読んで設問に答える問題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の咲が生徒会に参加し、学校内や地域で活動した経験についての英文スピーチ ・様々な体験を通して考えたことを速く正確に読み取る力を求めている。 ・A問題とB問題で異なる問題を、10点分出題している。
大問2	放送による聞き取りの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な口調で話される会話、ペットボトルのリサイクルについての発表、学校での特別講演を聞いて必要な情報を聞き取る問題 ・福井県が住みやすい場所と言われる理由をアメリカの友達に英語で表現する問題 ・必要な情報や話の要点を聞き取り解答する力を求めている。
大問3	対話文と資料を読んで設問に答える問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「日・米・中3カ国における、若者の人生の目標の違い」についての4人の会話文 ・グラフをもとに人生の目標について意見や考えを述べており、情報を整理し正確に読み取る力を求めている。
大問4	対話文を読んで、与えられた立場での意見を英語で述べる問題	<ul style="list-style-type: none"> ・A問題とB問題で異なる問題である。 ・B問題は、仕事を自分で体験するほうが、本から学んだり親から教えてもらったりするよりよいという立場で、自分の考えを40語程度の英語で書く力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】長めの英文から、必要な情報を聞き取り、正確に表現することに課題がある。

大問2 (2) 1 正答率 33.54% 無答率 5.33%

2 放送による問題(この問題は、検査開始後 35 分経過してから行う。)

(2) 中学生のあなたは、英語の授業でペットボトルのリサイクルについての発表を聞いている。その内容をよく聞いて、次のメモ(MEMO)の(1)~(3)に、それぞれ最も適当な数字または語句を書け。

MEMO

Recycling Plastic Bottles

① Why are plastic bottles convenient? → Plastic bottles are (1). We can drink from them anywhere.

【放送原稿】

中学生のあなたは、英語の授業でペットボトルのリサイクルについての発表を聞いています。その内容をよく聞いて、問題用紙のメモの1から3の空所に、それぞれ最も適当な数字または語句を書きなさい。英文は2回読まれます。では始めます。

(一問3秒一)

Today I'll talk about recycling plastic bottles. In Japan, plastic bottles are used for many kinds of juice, tea, and water. Plastic bottles are convenient because they are easy to carry and we can drink from them anywhere. They are also eco-friendly because we can recycle them. In Japan, about 87 percent of plastic bottles were recycled in 2015. Japan was number one in the world. In the United States, about 22 percent of plastic bottles were recycled. If we recycle them, we can make many things, such as pens, clothes, and bags. There is one thing you have to remember. You can recycle only the plastic bottles with a special mark on them. If you find that mark on a plastic bottle, please recycle it in an eco-friendly way.

(一問10秒一) 繰り返します。(英文を繰り返す。)(一問10秒一)

【解答】

1. easy to carry

〈誤答分析〉

- “Plastic bottles are convenient because they are easy to carry and we can drink from them anywhere.”と放送されており、問題用紙には後半の “We can drink from them anywhere.” が印刷されている。それにもかかわらず、“useful” や “recycle” という誤答が多かった。カタカナでよく使われる「キャリー」であるが、“carry” を音声で聞いてすぐに「運ぶ」という意味が繋がらなかったため、“useful” や “recycle” など、聞いて意味がすぐにわかる語を答えたと考えられる。
- 正答率が33.54%あるが、英文中で答となる箇所が明確に読まれているので、課題として取り上げた。

[SASA で指摘された課題]

- SASA2016 1(1) (自然な口調で読まれる英文を聞いて、大切な部分を正しく聞き取ることができる。) 46.7%

〈今後の指導のポイント〉

- 英文を聞いて、分かったことをノートに書き、相手(友達、ALT、JTE)に伝える。

→どのような語句がキーワードになるか、アドバイスを与えたり、生徒に考えさせたりするとよい。

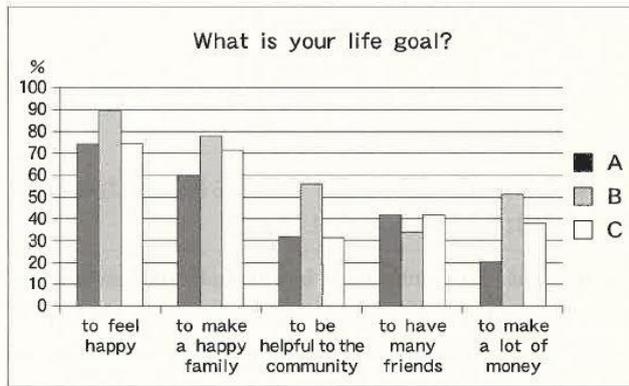
参考: 「SASA2016 報告書」p180 【学習課題(例2)】教科書本文の内容を聞き、聞いて分かったことを相手に伝える学習

【課題②】人物の考えを指定された語数で表現することに課題がある。

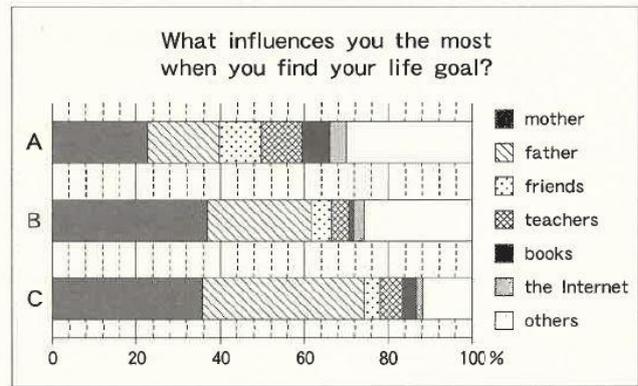
大問3(4) 正答率 0.63% 無答率 8.78%

3 絵美とアレックス、光太たちのグループが、ベーカー先生の授業で、人生の目標(Life Goal)について、グラフ(Graph)を見ながら話をしている。次のグラフと対話文を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、A、B、Cは、それぞれのグラフに共通する国を指す。

Graph 1



Graph 2



グラフ1は複数回答可能のため、それぞれの割合を足すと100%を超える。

国立青少年教育振興機構サイト「高校生の生活と意識に関する調査報告書ー日本・米国・中国・韓国の比較」(H27.8)より日米中の3カ国を抜粋し編集

Mr. Baker: What is your life goal? Today, we're going to talk about life goals.

Kota: I want to make a lot of money in the future. If I have a lot of money, I can travel around the world and experience many things to broaden my horizon.

Emi: Kota, you already have your life goal. I don't have any special life goals. How about you, Alex?

Alex: I want to make other people happy. Especially, I want to help people in need in the world. For example, in Africa, many people can't go to the doctor or don't have enough food to live.

Kota: You should make a lot of money first, Alex. If you don't have money, you can't help those people.

Alex: I want to help them with my own skills. At university, I will study hard to become a doctor and learn several languages. Then I want to join an international charity group and help people in need.

Mr. Baker: I have two interesting graphs. Look at Graph 1. It shows life goals of students in three countries.

Alex: In all the three countries, the percentage of students who want to feel happy is the highest. I have thought "to be helpful to the community" is the most popular, but it isn't.

Emi: The percentages of students who want to have many friends in Japan and in China are higher than the percentage in America. That surprises me because my American friends have so many friends.

Kota: Wow! The percentage of Japanese students who want to make a lot of money is the lowest.

Emi: Kota and Alex, what influenced you when you found your life goals?

Kota: I like to read books about people who are successful in the world. I was impressed with Bill Gates the most. He made a lot of money and used the money to do many good things for the world.

Alex: I was in a hospital for a month when I was in elementary school. I met wonderful doctors. They always listened to me and gave me good advice. I decided to be a doctor like them.

Mr. Baker: I see. Great people influenced you. Everyone, look at Graph 2. We can see what influences students the most when they think about life goals.

Alex: Many students are influenced by their mothers or fathers in all the three countries.

Emi: Parents can give good advice because they know their children very well, I think.

Kota: There is a small difference. In Japan and in America, the percentage of "mother" is higher than the percentage of "father." But in China, the percentage of "father" is higher.

Emi: People have various life goals and they are influenced by many things when they find their life goals.

Mr. Baker: That's right. If you have your own life goal, you can study harder, I think. Emi, I hope you'll find a good life goal for you. Thank you, everyone.

(注) percentage 割合 thought think の過去分詞 Bill Gates マイクロソフト社の共同創業者

(4) 次の質問に 25 語程度の英語で答えよ。ただし、符号(, . ? ! など)は語数に含めないこと。

What is Alex's life goal? And what will he do for his life goal?

【解答例】

He wants to help people in need in the world, so he'll become a doctor who speaks several languages and join an international charity group.

〈誤答分析〉

- ・対話文の中に書かれてある 4 つのポイント (help people in need / become a doctor / speaks several languages / join an international charity group) を全て含めていない生徒が多かった。
- ・語句を適切に使って制限字数内で書く力が不十分である。

[SASA で指摘された課題]

- ・SASA2016 8 観点 2 (時制や語順などの文法に従って、読み手に伝わるように表現することができる。)
- 10.4%

〈今後の指導のポイント〉

- ・スピーチや対話文などの英文を読み、必要な情報や人物が言いたいことを日本語でまとめる活動をおこなう。徐々にレベルを上げて、英語で表現する活動に発展させる。
→授業の中に帯活動として英文を読む活動を取り入れる。英文を読ませる前に読み取りのポイントを与えておく。英文の例として、生徒の作文を添削したものや、ALT がニュースを簡単にまとめたものを用いて、筆者の言いたいことを簡単に日本語でまとめる活動や英語でまとめる活動が有効である。

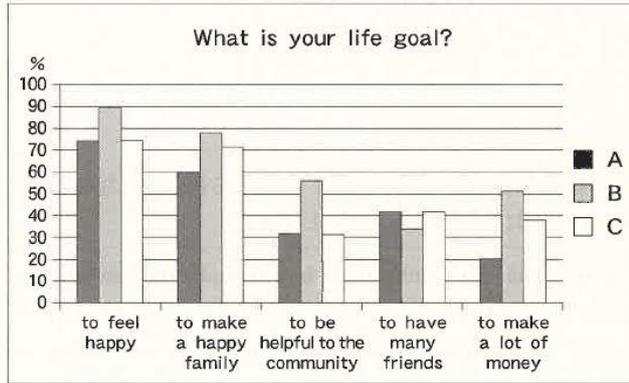
(参考「SASA2014 報告書」 pp180-182 4(3) 課題を解決するための授業改善事例)

【課題③】対話と資料から、必要な情報を整理し、表現することに課題がある。

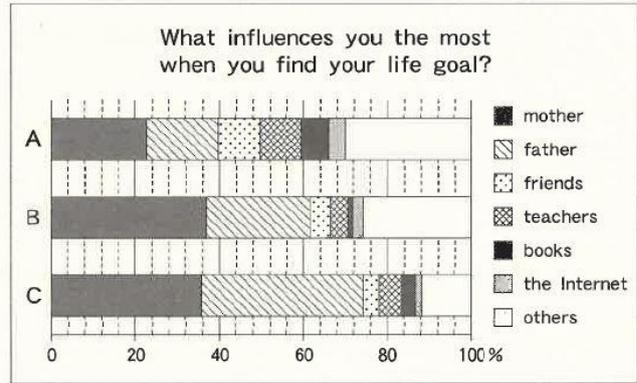
大問3 (7) 1. 正答率 9.40% 無答率20.06%
 2. 正答率 9.72% 無答率19.75%

3 絵美とアレックス、光太たちのグループが、ペーカー先生の授業で、人生の目標(Life Goal)について、グラフ(Graph)を見ながら話している。次のグラフと対話文を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、A、B、Cは、それぞれのグラフに共通する国を指す。

Graph 1



Graph 2



グラフ1は複数回答可能のため、それぞれの割合を足すと100%を超える。

国立青少年教育振興機構サイト「高校生の生活と意識に関する調査報告書ー日本・米国・中国・韓国の比較」(H27.8)より日米中の3カ国を抜粋し編集

Mr. Baker: What is your life goal? Today, we're going to talk about life goals.

Kota: I want to make a lot of money in the future. If I have a lot of money, I can travel around the world and experience many things to broaden my horizon.

Emi: Kota, you already have your life goal. I don't have any special life goals. How about you, Alex?

Alex: I want to make other people happy. Especially, I want to help people in need in the world. For example, in Africa, many people can't go to the doctor or don't have enough food to live.

Kota: You should make a lot of money first, Alex. If you don't have money, you can't help those people.

Alex: I want to help them with my own skills. At university, I will study hard to become a doctor and learn several languages. Then I want to join an international charity group and help people in need.

Mr. Baker: I have two interesting graphs. Look at Graph 1. It shows life goals of students in three countries.

Alex: In all the three countries, the percentage of students who want to feel happy is the highest. I have thought "to be helpful to the community" is the most popular, but it isn't.

Emi: The percentages of students who want to have many friends in Japan and in China are higher than the percentage in America. That surprises me because my American friends have so many friends.

Kota: Wow! The percentage of Japanese students who want to make a lot of money is the lowest.

Emi: Kota and Alex, what influenced you when you found your life goals?

Kota: I like to read books about people who are successful in the world. I was impressed with Bill Gates the most. He made a lot of money and used the money to do many good things for the world.

Alex: I was in a hospital for a month when I was in elementary school. I met wonderful doctors. They always listened to me and gave me good advice. I decided to be a doctor like them.

Mr. Baker: I see. Great people influenced you. Everyone, look at Graph 2. We can see what influences students the most when they think about life goals.

Alex: Many students are influenced by their mothers or fathers in all the three countries.

Emi: Parents can give good advice because they know their children very well, I think.

Kota: There is a small difference. In Japan and in America, the percentage of "mother" is higher than the percentage of "father." But in China, the percentage of "father" is higher.

Emi: People have various life goals and they are influenced by many things when they find their life goals.

Mr. Baker: That's right. If you have your own life goal, you can study harder, I think. Emi, I hope you'll find a good life goal for you. Thank you, everyone.

(注) percentage 割合 thought think の過去分詞 Bill Gates マイクロソフト社の共同創業者

(7) 次の英文は、授業の感想として絵美が書いたものである。英文の中の(1)～(3)に入る適当な語句をそれぞれ答えよ。

Today, I learned about life goals. Mr. Baker thinks having a life goal will help us to (1). I don't have any life goals now. From now on, I will experience many things and talk with many people to find my life goal. My parents give me good advice because they (2) well. I also learned one thing from Graph 2. I can talk with teachers, read books, and use (3) to find my life goal.

【解答例】 1. study harder 2. know me 3. the Internet

〈誤答分析〉

- ・ 語句を答えるという解答形式であり、選択肢から選ぶ形式よりも難易度が高かったため、無答率が最も高かった。
- ・ 本文中のものと異なる表現を用いた英文であるため、解答作成のヒントを本文中に見つけられなかった生徒が多いと考えられる。
- ・ 1の“help us to”や2の“because they”の次に入るものが動詞であることを理解できていない生徒が多かった。

[SASA で指摘された課題]

- ・ SASA2016 8 観点 4 (文のつながりや構成を考え、まとまりのある文章で表現することができる。) 24. 9%

〈今後の指導のポイント〉

- ・ まとまりのある英文を読んで、概要や要点を適切にまとめて書く活動を行うことが大切である。
→ 情報整理をしながら、構成に注意して書く活動を行うことが有効である。

参考：「SASA2016 報告書」p189 【学習課題 (例3)】物語要約文を書き、まとまりのある文章を構成する学習

- ※ 概要や要点を書く際に、初歩としては英文の語彙や表現を使ってよいが、徐々にレベルをあげて、他の語彙や表現を使わせることも有効である。

数学A

1 H30年度入学者選抜（調査人数 150人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率
1	(1)	ア	4	3.71	92.67%	0.00%
		イ	4	2.60	59.33%	3.33%
		ウ	4	3.55	88.00%	0.00%
	(2)		5	3.69	73.33%	11.33%
	(3)		5	3.74	74.00%	6.67%
	(4)		6	4.87	76.67%	1.33%
	(5)		6	4.96	82.67%	2.00%
	(6)	○	6	2.52	24.00%	12.00%
2	(1)		6	4.48	64.00%	0.00%
	(2)	○	4	2.43	56.00%	15.33%
3	(1)		3	2.82	94.00%	1.33%
	(2)		3	2.28	74.67%	3.33%
	(3)		4	2.30	56.67%	14.67%
4	(1)		4	2.07	42.00%	13.33%
	(2)		6	0.97	13.33%	20.67%
5	(1)		4	0.83	20.00%	18.67%
	(2)	○	6	0.13	0.67%	46.67%
6	(1)		6	1.65	26.00%	12.00%
	(2)	○	8	1.03	4.00%	22.00%
	(3)		6	0.00	0.00%	64.00%
合計				50.64		

※Aのみの問題に網掛(他はAB共通問題)

※20%未満に網掛

※15%超過に網掛

2 全体概要

<p>良好</p> <p>○関数である2つの数量を正しく選ぶことができる。 大問1 (4)</p> <p>○円周角の定理を用いて問題を正しく処理することができる。 大問1 (5)</p> <p>○相対度数を正しく求めることができる。 大問3 (3)</p> <p>○問題文を正確に読み取り、条件を満たす場合について考察することができる。 大問4 (1)</p>	
<p>課題</p> <p>●多項式をいくつかの因数の積の形に表すことに課題がある。 大問1 (2)</p> <p>●2つの数量の関係をグラフに正しくかくことに課題がある。 大問2 (2)</p> <p>●2つの三角形の相似を数学的に正しく証明することに課題がある。 大問6 (2)</p>	

3 問題の概要

大問1	小問題 (2)以外A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、関数、図形、因数分解に関する基本的な問題 ・正確な知識や正しく処理する能力を求めている。
大問2	関数	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の知識に関する基本的な問題 ・式を求めたり、グラフに表したりする力を求めている。
大問3	資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用に関する基本的な問題 ・資料を読み取る能力を求めている。
大問4	確率 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り出した数字によるグラフを題材とした確率の問題 ・確率の意味を正しく理解し、2つのグラフの交点を、取り出した数字によって場合分けして考える力を求めている。
大問5	連立方程式 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式と図形の融合問題 ・条件に当てはまる数量を的確に捉える能力を求めている。
大問6	平面図形 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理、相似、平面図形に関する問題 ・証明に用いる根拠を明確にし、見通しを持って説明する能力や図形の性質を活用する力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】多項式をいくつかの因数の積の形に表すことに課題がある。

大問1 (2) 正答率 73.3% 無答率 11.3%

(2) $x^2 - 4y^2$ を因数分解せよ。

(解)

【解答例】

(2) $(x+2y)(x-2y)$

答

〈誤答分析〉

- ・ $(x-2y)^2$ といった公式の勘違いや、 $(x+2)(x-2)$ 、 $(x+4y)(x-4y)$ といったケアレスミスによる誤答
→ 基礎的なスキルの習熟が十分でないことによる誤答だと考えられる。
- ・ 適当に式を変形し、多項式のままの答えを書いたり、方程式と混同して等号を含んだ解答を記入したりする誤答
→ 因数分解の意味を理解していないことによる誤答だと考えられる。

〈今後の指導のポイント〉

- ・ 因数分解は、方程式を解くだけでなく、グラフと軸との交点を調べるためにも必要な計算であるため、正しく行えるように指導する必要がある。
→ 因数分解の公式を正しく理解させ、習熟させるとともに、正しく変形できたか確認する習慣をつけさせる。
- ・ 等号（「＝」）の意味を正しく理解させ、式変形の等号と方程式の等号を区別できるように指導する必要がある。
→ 何を目的とする数式なのか常に意識させ、それにあつた数式処理ができるように、過程を重視した授業展開を工夫する。

【課題②】 2つの数量の関係をグラフに正しくかくことに課題がある。

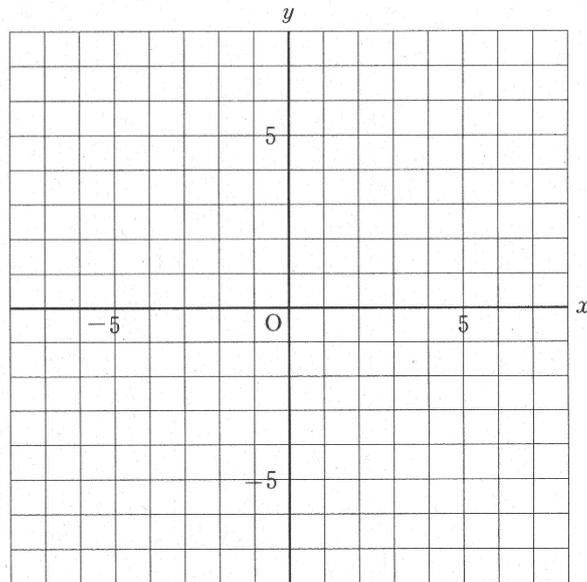
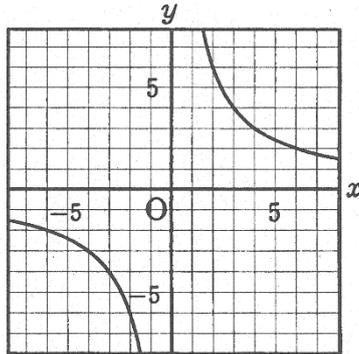
大問2 (2) 正答率 56.0% 無答率 15.3%

(2) $y = \frac{12}{x}$ のグラフをかけ。

(解)

【解答例】

(2)



〈誤答分析〉

- ・ グラフが、第1象限の場合、(2, 6) (3, 4) (4, 3) (6, 2) のすべてを通過していない誤答
→ 反比例のグラフをかくために、「 x の値に対応する y の値をかいた表」をつくる習慣が身につけていないことによる誤答だと考えられる。
- ・ 第1象限にしかグラフがかいていない誤答
→ 反比例のグラフが、双曲線であることを理解していないことによる誤答だと考えられる。
- ・ 第2象限と第4象限にグラフがかいてある誤答
→ $y = \frac{a}{x}$ の比例定数 a の意味を理解していないことによる誤答だと考えられる。
- ・ 直線をかいてある誤答
- ・ 放物線をかいてある誤答
- ・ 第3象限と第4象限にグラフがかいてある誤答
→ 反比例のグラフの概形を理解していないことによる誤答だと考えられる。

〈今後の指導のポイント〉

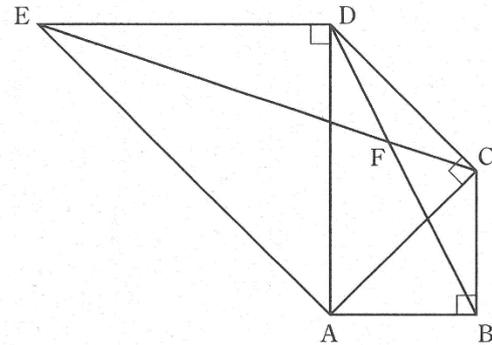
反比例のグラフをかくことは、教科書の練習問題レベルの基本的な問題であるにもかかわらず、正答率が56.0%と低く、無答率が15.3%と高い。福井県の学力検査において、反比例のグラフをかくという問題を出題したことはなく、新傾向の問題である。

- ・ 反比例の関係にある数量の変化の特徴を捉え、反比例の関係を理解させる必要がある。
→ x の値が2倍、3倍・・・となるとき、 y の値が $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍・・・となることや xy の値が一定となることを、数学的活動を通して理解させる。
- ・ 反比例のグラフについて正しく理解させることが必要である。
→ グラフをかくにあたっての基本的な手順である「 x の値に対応する y の値をかいた表」をつくることを徹底させ、反比例のグラフについて正しく理解させ、かくことができるようにする。

【課題③】 2つの三角形の相似を数学的に正しく証明することに課題がある。

大問6 (2) 正答率 4.0% 無答率 22.0%

6 右の図のように、五角形 ABCDE があり、
 $AB = BC, AC = CD, AD = DE,$
 $\angle ABC = \angle ACD = \angle ADE = 90^\circ$ である。
 また、線分 CE と線分 BD の交点を F とする。
 このとき、次の問いに答えよ。ただし、
 $AB = 1 \text{ cm}$ とする。



(2) $\triangle BCD \sim \triangle CDE$ であることを証明せよ。

【解答例】

(2) $BD^2 = AB^2 + AD^2 = 5$

$BD > 0$ であるから、 $BD = \sqrt{5}$

$\triangle BCD$ と $\triangle CDE$ において

$BC : CD = 1 : \sqrt{2}$ ①

$CD : DE = \sqrt{2} : 2 = 1 : \sqrt{2}$ ②

$BD : CE = \sqrt{5} : \sqrt{10} = 1 : \sqrt{2}$ ③

①, ②, ③ から、3組の辺の比が、すべて等しいので、

$\triangle BCD \sim \triangle CDE$

〈誤答分析〉

- $\angle BCD = \angle CDE$ には着目できているが、2組の辺の比を正しく示すことができていない誤答
 → 角度は容易に見つけ出すことができるのに対し、対応する辺の比に着目できなかつたり、辺の比の表し方が不十分であったりすることによる誤答だと考えられる。
 → 3つの相似条件のうち「2組の角が、それぞれ等しい」を用いると考え、もう一つの角を示そうとしたことによる誤答だと考えられる。
- 共通な辺として $CD = DC$ と解答していたり、円周角の定理を理由にあげていたりする誤答
 → 合同な図形の証明と混同していたり、円の性質が理解できていなかったりすることによる誤答だと考えられる。

〈今後の指導のポイント〉

- 図や与えられた情報から、証明に必要な条件を選択し、説明できる力を高めることが必要である。
 → 相似の証明において、「2組の角が、それぞれ等しい」を用いる問題が多く扱われてきたが、「辺の比」を用いた問題も積極的に取り入れるなどして、様々な問題に触れさせる。
 → 分かっている情報を図に書き込むなど、どの条件に当てはまるか見通しを持って考え、論理的に説明できる力を育てる。
- それぞれの定理の意味を理解し、それを適切に用いる力をつけることが必要である。
 → 問題の中で、既習のどの定理や性質を利用したものかについて、その都度確認するなどして、意味理解の定着を図る。

数学B

1 H30年度入学者選抜（調査人数 319人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率
1	(1)	ア	4	3.97	99.37%	0.00%
		イ	4	3.21	75.55%	0.00%
		ウ	4	3.90	97.49%	0.00%
	(2)		5	4.61	91.85%	0.00%
	(3)		6	5.66	92.16%	0.00%
	(4)		6	5.59	92.16%	0.31%
	(5)	○	5	2.45	47.96%	5.02%
(6)	○	6	4.30	56.74%	2.51%	
2	(1)		4	3.32	80.56%	1.25%
	(2)		6	2.34	34.48%	5.64%
3	(1)		4	1.72	40.75%	11.29%
	(2)	○	6	0.56	3.13%	20.06%
4	(1)		6	3.68	60.19%	4.08%
	(2)	○	8	4.10	33.86%	3.76%
	(3)		6	0.23	3.45%	57.05%
5	(1)		4	3.82	95.30%	0.63%
	(2)		4	1.85	44.83%	4.70%
	(3)	○	8	2.76	14.73%	7.21%
	(4)		4	0.62	15.05%	42.95%
合計				58.68		

※Bのみの問題に網掛(他はAB共通問題)

※20%未満に網掛

※15%超過に網掛

2 全体概要

<p>良好</p> <p>○関数である2つの数量を正しく選ぶことができる。 大問1 (3)</p> <p>○円周角の定理を用いて問題を正しく処理することができる。 大問1 (4)</p> <p>○問題設定を理解し、図形上の長さを求めることができる。 大問4 (1)</p>	
<p>課題</p> <p>●与えられた近似値をとる数の値の範囲を求めることに課題がある。 大問1 (5)</p> <p>●2つの三角形の相似を数学的に正しく証明することに課題がある。 大問4 (2)</p> <p>●平面図形と関数の融合問題において、事柄が成り立つ理由を数学的に正しく説明することに課題がある。 大問5 (3)</p>	

3 問題の概要

大問1	小問題 (5)以外A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、関数、図形、近似値の理解に関する基本的な問題 ・正確な知識や、正しく処理する能力を求めている。
大問2	確率 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り出した数字によるグラフを題材とした確率の問題 ・確率の意味を正しく理解し、2つのグラフの交点を、取り出した数字によって場合分けして考える力を求めている。
大問3	連立方程式 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式と図形の融合問題 ・条件に当てはまる数量を的確に捉える能力を求めている。
大問4	平面図形 (A B 共通問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理、相似、平面図形に関する問題 ・証明に用いる根拠を明確にし、見通しを持って説明する能力や図形の性質を活用する力を求めている。
大問5	関数	<ul style="list-style-type: none"> ・関数と図形の融合問題 ・図形の性質や関数的な見方・考え方を活用して問題を解決したり、理由を説明したりする力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】与えられた近似値をとる数の値の範囲を求めることに課題がある。

大問 1 (5) 正答率 48.0% 無答率 5.0%

(5) 次の文章の下線部には誤りがある。誤りをなおして、下線部を正しくせよ。

「ある数 a の小数第 2 位を四捨五入して、近似値を求めると、10.5 となった。ある数 a の範囲は $10.45 \leq a \leq 10.54$ である」

(解)

答

【解答例】

(5) $10.45 \leq a < 10.55$

〈誤答分析〉

- ・ $10.44 < a < 10.55$ 、 $10.45 \leq a \leq 10.55$ とする誤答が、それぞれ 6.3% と最も多かった。また、下限の間違いが、全体の 23.8%、上限の間違いが 39.8% あった。(無答を除く)
→ 近似値に対する理解が十分なされていないことによる誤答だと考えられる。
- ・ $10.45 \leq a \geq 10.54$ 、 $10.45 \geq a \geq 10.54$ といった不等号の使い方の間違いが全体の 3.1% あった。
→ 不等号の意味や不等式での表現に関する技能が十分習熟されていないことによる誤答だと考えられる。

〔SASA 2013 で指摘された課題〕

- ・ SASA2013 A18 (与えられた近似値をとる数の値の範囲を示す問題)
正答率 45.1% 無答率 4.4%

〈今後の指導のポイント〉

- ・ 福井県の学力検査としては新傾向の問題であり、対策が十分でなかったと考えられる。
→ 近似値に関する問題は中学 1 年の 3 学期に学習するが、考査等で出題する機会がとりにくい問題である。普段の授業の中で、等号の有無など確認する場面を増やすなど、習熟度を確認する手立てを考える。
- ・ 不等号や等号の意味を正しく理解させることが必要である。
→ 数量の関係を、不等式を用いて表すといった「数式で表現する力」を育てる学習を取り入れる。また、作った数式が正しいかどうか常に確認する習慣をつけさせる。

【課題②】 2つの三角形の相似を数学的に正しく証明することに課題がある。

問4 (2) 正答率 33.9% 無答率 3.8%

4 右の図のように、五角形ABCDEがあり、

$AB = BC, AC = CD, AD = DE,$

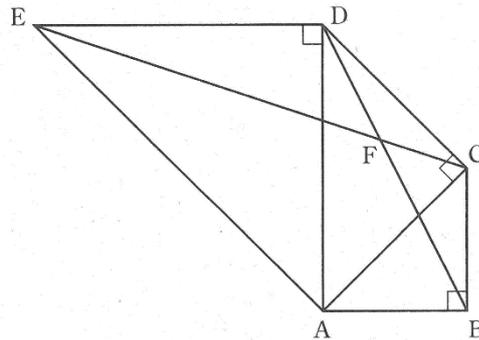
$\angle ABC = \angle ACD = \angle ADE = 90^\circ$ である。

また、線分CEと線分BDの交点をFとする。

このとき、次の問いに答えよ。ただし、

$AB = 1\text{ cm}$ とする。

(2) $\triangle BCD \sim \triangle CDE$ であることを証明せよ。



【解答例】

(2) $BD^2 = AB^2 + AD^2 = 5$

$BD > 0$ であるから、 $BD = \sqrt{5}$

$\triangle BCD$ と $\triangle CDE$ において

$BC : CD = 1 : \sqrt{2}$ ①

$CD : DE = \sqrt{2} : 2 = 1 : \sqrt{2}$ ②

$BD : CE = \sqrt{5} : \sqrt{10} = 1 : \sqrt{2}$ ③

①, ②, ③から、3組の辺の比が、すべて等しいので、

$\triangle BCD \sim \triangle CDE$

〈誤答分析〉

- ・ $\angle BCD = \angle CDE$ には着目できているが、2組の辺の比を正しく示すことができていない誤答
 → 角度は容易に見つけ出すことができるのに対し、対応する辺の比に着目できなかつたり、辺の比の表し方が不十分であつたりすることによる誤答だと考えられる。
 → 3つの相似条件のうち「2組の角が、それぞれ等しい」を用いると考え、もう一つの角を示そうとしたことによる誤答だと考えられる。
- ・ 共通な辺として $CD = DC$ と解答していたり、円周角の定理を理由にあげていたりする誤答
 → 合同な図形の証明と混同していたり、円の性質が理解できていなかったりすることによる誤答だと考えられる。

〈今後の指導のポイント〉

- ・ 図や与えられた情報から、証明に必要な条件を選択し、説明できる力を高めることが必要である。
 → 相似の証明において、「2組の角が、それぞれ等しい」を用いる問題が多く扱われてきたが、「辺の比」を用いた問題も積極的に取り入れるなどして、様々な問題に触れさせる。
 → 分かっている情報を図に書き込むなど、どの条件に当てはまるか見通しを持って考え、論理的に説明できる力を育てる。
- ・ それぞれの定理の意味を理解し、それを適切に用いる力をつけることが必要である。
 → 問題の中で、既習のどの定理や性質を利用したもののかについて、その都度確認するなどして、意味理解の定着を図る。

【課題③】平面図形と関数の融合問題において、事柄が成り立つ理由を数学的に正しく説明することに課題がある。

大問5 (3) 正答率 14.7% 無答率 7.2%

5 右の図のように、

関数 $y = \frac{a}{x} (x > 0, a \text{ は定数})$ ……①

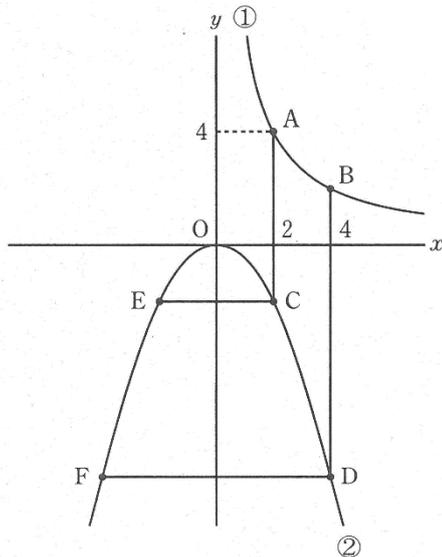
関数 $y = bx^2 (b \text{ は定数})$ ……②

のグラフがある。

①のグラフ上に点A(2, 4)と、 x 座標が4である点Bがある。点A, Bから y 軸と平行な直線をひき、②のグラフとの交点を、それぞれ点C, Dとおく。

また、点C, Dから x 軸と平行な直線をひき、②のグラフとの交点のうち、点C, Dと異なる点を、それぞれ点E, Fとおく。

直線ABと直線EDが互いに平行であるとき、次の問いに答えよ。



(3) 直線ABと直線FCの交点をGとする。△ACGはどんな三角形であるかを解答欄の()に書き入れ、その理由を言葉や数、式などを使って説明せよ。

△ACGは()である。
(説明)

【解答例】

(3) △ACGは(∠AGC=90°の直角二等辺三角形)である。

(説明) 直線ABの式は $y = -x + 6$ 、直線FCの式は $y = x - 4$ であるから、直線ABと直線FCの交点Gの座標は(5, 1)である。

$AG = 3\sqrt{2}$ 、 $CG = 3\sqrt{2}$ 、 $AC = 6$ であり、 $AC^2 = AG^2 + CG^2$ である。よって、三平方の定理の逆より、∠AGC=90°である。また、 $AG = CG$ だから、△ACGは、直角二等辺三角形である。

〈誤答分析〉

- ・ 直角二等辺三角形とだけ書いてある誤答 (∠AGC=90° を明記していない誤答)
 - 直角二等辺三角形だけの表記では、3種類の直角二等辺三角形があることを理解していないことによる誤答だと考えられる。
- ・ 説明が不十分な誤答
 - 誤答になった要因としては、次のことが考えられる。
 - ① 直線ABと直線FCの交点Gの座標を、連立方程式を解いて求めることができないこと。
 - ② 3辺の長さを求め、三平方の定理の逆などを用いて、△ACGが直角二等辺三角形であることを、見通しを持って説明することができないこと。

〈今後の指導のポイント〉

- 図形的・関数的な見方や考え方を活用できる力を高めることが必要である。
 - 三角形を含め、その他の多角形についても、図形の特徴を正確に表現する力を育てる。
 - 解答の見通しを持つために、図形に関する問題を、関数を用いて解くように、単元を超えた発展問題を扱うなどして、数学的な見方や考え方を育てる。
- 論理的に言葉や数、式などを使って説明する記述力や表現力を高めることが重要である。
 - 授業の中に、個人で考えた後でペアやグループで考える活動を取り入れ、論理的に説明する力を養う。また、論理的に言葉や数、式などを使って説明する力は、短期間では身につかないので、生徒が書き上げた答案を生徒同士でチェックし修正する時間を、中長期間にわたって意図的に設定して、記述力や表現力を育てる。

社会

1 H30年度入学者選抜（調査人数 451人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率
1	(1)		2	1.40	70.22%	0.00%
	(2)		2	0.92	46.22%	0.00%
	(3)		2	1.26	62.00%	1.33%
	(4)		2	1.47	73.56%	0.00%
	(5)	○	2	1.08	42.44%	1.78%
	(6)	○	2	0.96	35.33%	8.22%
	(7)	○	2	1.36	51.56%	1.78%
2	(1)		2	0.81	40.67%	0.22%
	(2)		2	1.24	61.11%	0.00%
	(3)		2	0.64	32.00%	0.00%
	(4)		2	1.47	71.56%	1.56%
		○	2	0.92	30.67%	6.67%
	(5)	○	2	1.36	50.22%	2.22%
○		2	0.90	30.00%	4.44%	
3	ア		2	1.24	62.00%	3.33%
	イ		2	1.27	61.11%	4.89%
	ウ		2	1.82	91.11%	0.89%
	エ		2	1.45	72.00%	2.44%
	(1)	○	2	0.99	36.00%	8.00%
			2	1.16	58.22%	0.67%
	(3)		2	1.31	65.56%	0.44%
	(4)		2	0.53	26.22%	6.44%
	(5)		2	0.36	18.00%	0.22%
	(6)		2	0.72	36.22%	0.44%
			2	1.74	86.89%	4.44%
	(7)	○	2	0.53	14.89%	12.89%
			2	0.60	30.22%	0.44%
(9)	○	2	0.63	30.44%	6.44%	
4	(1)		2	1.57	78.67%	0.44%
	(2)		2	1.26	63.11%	0.00%
			2	1.08	53.78%	8.00%
	(3)		2	1.33	64.44%	3.33%
	(4)		2	1.06	51.56%	7.11%
	(5)	○	2	0.77	27.56%	12.67%
	(6)		2	1.22	61.11%	0.44%
	(7)		2	1.84	92.22%	0.89%
		○	2	1.39	56.44%	2.89%
(8)		2	0.92	46.22%	0.22%	
5	(1)		2	0.51	25.56%	0.00%
	(2)		2	0.35	17.56%	0.67%
	(3)		2	1.75	87.11%	2.22%
		○	3	1.53	24.67%	4.00%
	(4)	○	3	1.19	12.44%	4.22%
	(5)		2	1.20	60.22%	0.00%
	(6)		2	1.61	80.44%	0.00%
	(7)		2	1.00	50.22%	0.00%
	(8)		2	0.94	46.67%	13.11%
	(9)	○	2	1.14	53.56%	4.44%
(10)		2	0.77	38.67%	0.44%	
合計				54.59		

※20%未満に網掛 ※15%超過に網掛

2 全体概要

良好

○社会的事象を考察する際に、適切な資料を選択することができる。 大問4(7)資料

○社会的事象について身近な生活と関連づけて適切に判断することができる。

大問5(6)

課題

●歴史的事象について、資料をもとに考察し、適切に説明することに課題がある。

大問3(7)説明

●古代の中国の歴史について、政治や文化などの歴史の理解に課題がある。

大問3(5)

●社会的事象の背景について、複数の指定語句を用いて、適切に説明することに課題がある。

大問5(4)

3 問題の概要

大問1	世界の地理	・ 正確に地図を読み取り写真資料と関連づけたり、アメリカの農業の特色を説明したりするなど、地図や統計などの資料を活用しながら適切に判断し、表現する力を求めている。
大問2	日本の地理	・ 自然や産業から見た日本の地域的特色を、資料を活用して考察する力を求めている。北九州市が目指した都市づくりについて説明する問題では、複数の資料を関連づけて多面的に考察し、表現する力を求めている。
大問3	日本および世界の歴史	・ 奈良時代の土地支配について「墾田永年私財法」を根拠に説明したり、資料をもとに歴史的背景を考察しながら、歴史新聞の見出しを考えたりするなど、基礎的知識をもとに適切に判断し、表現する力を求めている。
大問4	地理、歴史、公民の総合問題	・ 「ふるさと福井」を題材にした地理・歴史・公民の3分野の総合問題。福井県内各地の見学を通して、地理的、歴史的、公民的背景をもとに、福井県に対する深い理解を求めている。
大問5	公民分野	・ 現代社会が抱える非正規労働者や再生可能エネルギーなどの今日的課題に対して、資料をもとに考察し、判断する力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】 歴史的事象について、資料をもとに考察し、適切に説明することに課題がある。

大問3(7)説明 正答率 14.89% 無答率 12.89%

(7) 下線の部分⑦について、資料2のA～Cは、田沼意次、松平定信、水野忠邦のいずれかの政策をまとめたものである。資料2の中の に共通する語句を漢字3字で書け。また、田沼意次の政策の財政上の特徴を、資料2の内容をふまえて説明せよ。

資料2

A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> ・物価の上昇をおさえるため、営業を独占している <input type="text" value="Y"/> に解散を命じた。 ・江戸に出かせぎに来ている農民を故郷の村に帰らせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎での貿易を奨励し、銅や海産物を輸出した。 ・ <input type="text" value="Y"/> の結成を奨励し、特権を与えるかわりに営業税を納めさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗本や御家人が商人からしていた借金を帳消しにした。 ・江戸に出てきていた農民を村に帰し、ききに備え米を蓄えさせた。

【解答】 商工業者（商人）の力を利用して財政の立て直しを行った。

〈誤答分析〉

- ・「出かせぎの農民を農村に帰そうとした」など田沼意次の政策ではない記述が見られる。資料から田沼意次の政策がBであることを判断できていない。
- ・資料のBが田沼意次の政策であることの判断はできても、資料から読み取ったことをそのまま抜き出して記述しており、財政上の特徴を説明できない。

[SASA で指摘された課題]

- ・SASA2016 9(2)②（資料から打ちこわしが起こった理由を説明することができる。）

33.8%

〈今後の指導のポイント〉

- 資料から情報を読み取ることと、読み取った情報をどのように解釈するかを明確に区別するとよい。
(参考 SASA2016 指導例 報告書 p120)
- 江戸時代の四大改革について、政策の目的や成果を多面的・多角的に評価できるようにするとよい。
(参考 SASA2014 指導例 報告書 p121)

【課題②】古代の中国の歴史について、政治や文化などの歴史の理解に課題がある。

大問3(5) 正答率 18.00% 無答率 0.22%

(5) 下線の部分⑤に関するできごとについて述べた次のア～エを、年代の古いものから順に記号で書け。

ア 始皇帝が万里の長城を築いた。

イ 鑑真かんじんが来日して仏教の教えを広めた。

ウ 魏の皇帝が卑弥呼ひみこに金印を授けた。

エ 孔子が春秋・戦国時代に儒教の教えを説いた。

【解答】エ→ア→ウ→イ

〈誤答分析〉

- ・古代中国について、「始皇帝」「鑑真」「魏」「春秋戦国時代」の歴史の流れについて理解していない。特に「春秋戦国時代」についての理解が低い。

[SASA で指摘された課題]

- ・SASA2016 6(1) (平安初期に伝えられた新しい仏教を指摘することができる。)

18.9%

〈今後の指導のポイント〉

- 単元を振り返る際に、日本と外国との関係に留意して時代の流れをまとめる活動を行う。

(参考 SASA2014 指導例 報告書 p117)

- 複数の時代をまたいでまとめる際には、表やウェビングマップなどを用いて政治や文化などのテーマを絞って、前の時代と何がどう変化しているのか整理する。

(参考 SASA2016 指導例 報告書 p123～p124)

【課題③】社会的事象の背景について、複数の指定語句を用いて、適切に説明することに課題がある。

大問5(4) 正答率 12.44% 無答率 4.22%

(4) 人権の歴史の中で、20世紀になって自由権だけでなく社会権が認められるようになった理由を説明せよ。ただし、「貧富の差」と「人間」という語句を必ず使うこと。

【解答】資本主義経済の発展により貧富の差が拡大し、人間らしい生活が求められるようになったから。

〈誤答分析〉

- ・「貧富の差」という語句を「資本主義経済の発展」に関連づけて記述できていない。
- ・社会権が認められるようになった理由ではなく、「貧富の差があっても人間らしい生活を営むため」など社会権の目的を記述した誤答がある。

〈今後の指導のポイント〉

○資料を通して時代の特色や背景などを考えさせる授業を行う。

(参考 SASA2016 指導例 報告書 p117)

(参考 SASA2017 指導例 報告書 p96)

○時代のターニングポイントを中心に、社会の変化について説明する活動を通じて、時代を大観し表現する力を養う。

(参考 SASA2015 指導例 報告書 p112)

理科

1 H30年度入学者選抜（調査人数 451人）

大問	小問	記述	配点	平均点	正答率	無答率
1	(1)		2	1.91	95.78%	0.00%
		○	3	2.06	41.56%	0.00%
	(2)		2	1.70	85.11%	0.00%
	(3)		2	0.29	14.44%	0.22%
	(4)		2	1.84	91.78%	0.22%
2	(5)		2	1.40	70.22%	0.22%
	(1)		2	1.22	61.33%	1.78%
			2	1.04	52.22%	0.00%
	(3)		2	1.10	55.33%	1.56%
	(4)	○	3	0.41	8.22%	4.44%
(5)	○	3	0.40	3.33%	5.33%	
3	(1)		2	1.42	71.33%	0.00%
	(2)		2	0.92	46.22%	2.44%
	(3)	○	3	2.28	71.78%	3.56%
	(4)		2	0.78	39.11%	0.22%
	(5)	○	3	0.57	14.67%	4.44%
4	(1)		2	1.29	64.67%	0.67%
		○	3	1.57	48.22%	7.11%
	(2)		2	1.27	63.78%	0.44%
			2	0.69	34.44%	0.44%
	(3)		2	0.88	44.22%	0.89%
		2	1.61	76.67%	1.78%	
5	(1)		2	1.67	83.78%	0.00%
	(2)		2	0.94	30.89%	5.11%
	(3)	○	3	1.02	24.44%	4.00%
	(4)		2	0.97	48.44%	0.44%
	(5)		2	0.33	16.67%	6.44%
		2	0.27	11.78%	14.22%	
6	(1)	○	3	1.67	43.78%	0.67%
	(2)		2	1.37	68.22%	0.67%
	(3)		3	0.97	31.56%	10.44%
	(4)		2	1.08	53.56%	0.89%
	(5)		2	0.60	29.33%	1.33%
7	(1)	○	3	0.36	11.11%	0.67%
	(2)		3	1.32	44.00%	5.33%
	(3)		2	1.36	68.00%	0.67%
	(4)		2	0.72	36.22%	12.22%
			3	0.41	13.56%	0.89%
8	(1)	○	3	1.39	45.11%	2.00%
	(2)		3	1.11	36.67%	8.89%
	(3)	○	2	0.90	43.78%	2.22%
	(4)		2	0.86	42.67%	0.67%
	(5)		2	1.43	71.78%	0.67%
合計				47.43		

※20%未満に網掛 ※15%超過に網掛

2 全体概要

<p>良好</p> <p>○身近な生物や素材の特徴を理解し、正しく分類できる。 大問1 大問5(1)</p> <p>○用語、記号について、示し方や意味を正しく理解している。 大問3(1) 大問4(3)</p> <p>○天気図から天気の変化を読み取る技能を習得し、寒冷前線の特長を正しく理解している。 大問3(3)</p> <p>○鏡に映る物体の像について、光の反射法則を用いて推測ができる。 大問8(5)</p>
<p>課題</p> <p>●遺伝に関する用語の意味や法則について、適切な語句を用いて説明することに課題がある。 大問2(4)(5)</p> <p>●電池の仕組みやイオンのでき方に関する知識や、密度と体積から質量を求める力に課題がある。 大問5(5)</p> <p>●浮力について実験結果をもとにアルキメデスの原理と関連付ける思考力に課題がある。また、解答の表現力に課題がある。 大問7(1)</p>

3 問題の概要

大問1	・生物の体の共通点と相違点	・動物の分類 ・からだの特徴をもとに、動物を分類する力を求めている。
大問2	・遺伝の規則性と遺伝子	・遺伝の規則性と遺伝子 ・遺伝の規則性を理解し、データから結果を正しく考察する力を求めている。
大問3	・天気とその変化	・雲のでき方と前線や日本の天気 ・気象観測に関する複数の表やデータから、結果を正しく考察する力を求めている。
大問4	・大地の変化	・地層から読みとる大地の変化 ・岩石の分布と河川の地図を照らし合わせ、運搬された堆積物を分析し場所を推定する力を求めている。
大問5	・化学変化と電池	・電池の中で起こる変化 ・金属の性質を理解し、測定した数値を処理したり、化学電池の実験の結果を組み合わせたりして、問題を解決する力を求めている。
大問6	・化学変化	・気体の発生 ・気体の性質や発生方法を正しく理解し、応用できる力を求めている。
大問7	・力のつりあいと合成・分解	・水中の物体に働く力 ・浮力にみられる現象を活用して、実験結果から得られたグラフや数値を元に思考する力を求めている。
大問8	・光と音	・光や音の伝わり方 ・音の速さを測定するための実験方法や得られた数値を吟味して、音の速さを求める力を求めている。 ・光の反射の法則をもとに、光の道筋を思考する力を求めている。

4 誤答分析と今後の指導のポイント

【課題①】 遺伝に関する用語の意味や法則について、適切な語句を用いて説明することに課題がある。

大問2 (4) 正答率 8.2% 無回答 4.4%

(5) 正答率 3.3% 無答率 5.3%

2 エンドウを用いた遺伝の実験について、あとの問いに答えよ。ただし、丸形の種子をつくる遺伝子をA、しわ形の種子をつくる遺伝子をaとする。

〔実験1〕 しわ形の種子をつくる純系の個体の花粉を、①丸形の種子をつくる純系の個体のめしべにつけて交配すると、できた種子はすべて丸形となった。

〔実験2〕 実験1で得られた丸形の種子を育て、自家受粉させると、②できた種子の個体数は丸形としわ形が 3:1 の比であった。

(4) エンドウの種子の形は丸形が優性形質である。この優性形質とはどのような形質か簡潔に書け。

(5) エンドウの種子の丸形としわ形のように、世代をこえて形質が遺伝するのは、分離の法則に従って遺伝子が生殖細胞に入るからである。この分離の法則について「遺伝子」、「減数分裂」の2つの語句を用いて、簡潔に書け。

【解答例】

(4)	対立形質のそれぞれについての純系どうしを交配したときに子に現れる形質のこと。
(5)	対になっている遺伝子が、減数分裂のとき分かれて別々の生殖細胞に入ること。

〈誤答分析〉

- ・(4) 「異なる形質をもつ親同士を交配したときに子に現れる形質」「純系の親同士を交配させたときに子に現れる形質」「子に現れる形質」などの誤答が多い。
→優性形質は、子に現れる形質のことは理解しているが、対立形質のそれぞれについて、純系同士を交配しなければならぬことを理解していない。
- ・(4) 「エンドウの種子が丸型になること」「エンドウどうしを交配させたときに子に現れる形質」などの誤答が多い。
→優性形質は、エンドウの種子の形だけに見られる形質と誤って理解している。
- ・(5) 「遺伝子が減数分裂によって別々の生殖細胞に入ること」「遺伝子が減数分裂によって半分になり生殖細胞に入ること」「2種類の遺伝子が減数分裂によって別々の細胞に入ること」などの誤答が多く見られた。
→分離の法則は、遺伝子が減数分裂により別々の生殖細胞に分離することは理解していると思われるが、その遺伝子が対立遺伝子であることを理解していない。
- ・(5) 「対になっている遺伝子が減数分裂によって1つの細胞に入ること」「遺伝子が2倍に増え、減数分裂によって1つに減ること」などの誤答が多い。
→減数分裂の仕組みを理解していない。

〈今後の指導のポイント〉

- ・(4) (5) 理解していることを的確かつ簡潔に表現できるようにする能力が必要である。授業のまとめや発表のときなど、様々な場面で理科の用語の意味や法則について適切な語句を用いて説明させ、他者にわかりやすく伝えることのできる力を付けさせる。
- ・(4) 優性形質は、エンドウの種子の形だけに表れるものではなく、血液型 (ABO 式) や耳垢型など身近な例を挙げながら、様々な生物に見られる形質であることあることを理解し、応用できるようにする。
- ・(5) 模型やモデル図を用い、染色体の数、染色体の組み合わせなど体細胞分裂の仕組みと対比させながら、減数分裂の仕組みを理解させる。
- ・品種改良によって誕生した福井のブランド米「いちほまれ」を例に挙げて、世代を超えて形質が遺伝していく仕組みに興味関心を持たせる。

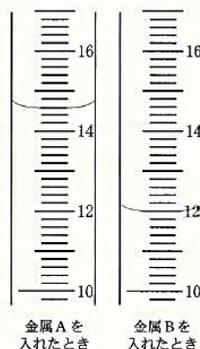
【課題②】電池の仕組みやイオンのでき方に関する知識や、密度と体積から質量を求める力に課題がある。

大問5 (5) 金属Aの種類 正答率16.7% 無答率6.4%
 金属Bの質量 正答率11.8% 無答率14.2%

5 2種類の金属A、Bについて次の実験を行った。この金属A、Bは、アルミニウム、亜鉛、鉄、銅、銀のいずれかである。あとの問いに答えよ。

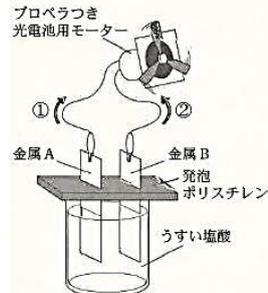
〔実験1〕 金属Aのかたまりと金属Bのかたまりの、質量と体積をそれぞれ測定した。質量は、金属Bの方が金属Aよりも5.50g大きかった。また体積を測定するために、これらをそれぞれ10.00 cm³の水を入れたメスシリンダーの中へ入れたところ、水面は図1のようになった。

図1 (目盛りの単位は cm³)



〔実験2〕 板状の金属A、Bを同じ大きさに切り、それぞれ質量を測定した。これらを図2のようにうすい塩酸に入れて電池をつくり、導線でプロペラつき光電池用モーターをつないでプロペラを回転させた。このとき金属Bの表面から気体が発生した。プロペラを回転させたまましばらく放置したあと、金属A、Bの板を取り出し、よく乾かして再び質量を測定した。金属Bの質量は変化がなかったが、金属Aの質量は減少していた。

図2



(5) 実験1、2の結果から金属Aがどの金属かを判断し、その元素記号を書け。また、実験1で用いた金属Bのかたまりの質量は何gか。四捨五入して小数第1位まで書け。なお、アルミニウム、亜鉛、鉄、銅、銀の密度は下の表のとおりである。

表

金属	アルミニウム	亜鉛	鉄	銅	銀
密度(g/cm ³)	2.70	7.13	7.87	8.96	10.5

【解答例】

	金属A	金属Bの質量
(5)	Al	17.9 g

〈誤答分析〉

- 金属Aの種類について、「Zn」や「Cu」の誤答が多い。
 →それぞれの金属の密度と体積から質量を求め、その差を比較することで金属AとBを特定することができる問いである。誤答に多く見られたZnやCuは電池の電極としてよく用いられる素材であり、教科書などで頻繁に登場するため、見覚えのある金属を答えたものと思われる。
- 金属Bの質量については、様々な値の誤答が見られ、無答も多い。
 →AとBの金属を特定するための過程で質量を計算するため、Bが銅とわかれば質量を答えることができる問いである。しかし、密度と体積から質量を求めることができず、Bの種類も特定できないため、誤答や無答が多くなったと考えられる。また、Aの種類が誤っているにもかかわらずBの質量は正解しているというケースもあった。これは、経験的に正極Bは銅であろうと推測して求めたものと思われる。

〈今後の指導のポイント〉

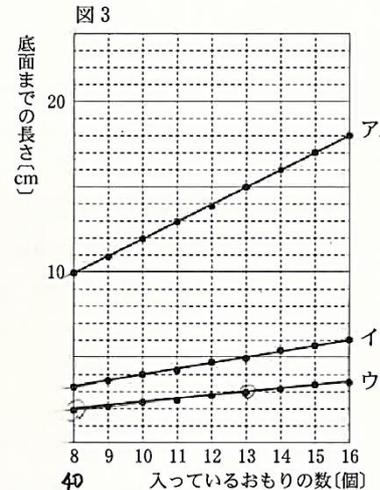
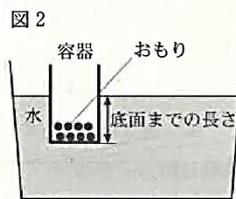
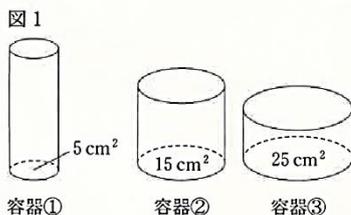
- 実験を通して測定値の意味を理解させる。
- 未知試料の同定は最も科学的なものの見方、考え方を身につけるために有効な実験である。このような実験事実から仮説を立てて検証する活動を定期的に授業に取り入れることで、多くの可能性から一つの事実を確認する経験をつませる。

【課題③】浮力について実験結果をもとにアルキメデスの原理と関連付ける思考力に課題がある。
また、解答の表現力に課題がある。

大問7 (1) 正答率 11.1% 無答率 0.7%

7 浮力の大きさについて調べるために次の実験を行った。あとの問いに答えよ。ただし、質量 100 g の物体にはたらく重力の大きさを 1 N とする。

〔実験〕 図1のような、底面積が 5 cm^2 、 15 cm^2 、 25 cm^2 の円柱形の容器①～③に、質量が 5 g のおもりを 8 個ずつ入れた。図2のように、それぞれの容器を、水が入った水槽の中で底面が水平になるように浮かべ、水面から容器の底面までの長さを測定した。その後、同じおもりをさらに入れたところ、水面から容器の底面までの長さが変化したので、再び長さを測定した。この操作を、おもりが 16 個になるまで繰り返し、結果を図3のグラフにまとめた。なお、実験中にどの容器も全体が沈むことはなかった。



問(1) 実験の結果から、水中での浮力の大きさは何によって決まるといえるか。解答欄の書き出しに続けて、説明せよ。

(1) 浮力の大きさは、水中に沈んでいる部分の体積によって決まる。

【解答例】

〈誤答分析〉

- ・「容器の底面積の大きさで決まる」、「体積の大きさによって決まる」、などの誤答が多く見られた。
→容器①、②、③の違いに注目し、底面積が大きいと底面までの長さが短くなることは理解していると思われるが、水中に沈む体積で比較することができていない。
→体積に注目している点はよいのだが、水中に沈んでいる部分の体積なのか、容器全体の体積なのかという区別を明記していない。文章で物事を正確に伝達することができていない。
- ・「おもりの質量によって決まる」、「底面までの高さによって決まる」、などの誤答が多く見られた。
→実験の結果として示されているグラフと浮力の相関性を理解できていないため、短絡的に実験結果に示されている変化量を解答としている。

〔SASA で指摘された課題〕

- ・SASA2017 4(2) 正答率 36.0%
実験結果から、計算によって浮力の値を求めることができる。

〈今後の指導のポイント〉

- ・定量的に浮力を調べる実験をすることで、浮力の基本原理であるアルキメデスの原理を理解させる。
- ・水に沈める物体の形状と底面積、水に沈めた深さの関係について調べるためにはどのような実験を行うとよいのかを、生徒に話し合いをさせて実験計画を作成させる。実験計画を作成することで、実験データの深い考察を促し、グラフの見方や実験データと相関のある物理量について、規則性を見抜く力を身に付けさせる。
- ・実験結果を他の実験グループに向けて発表することで、他者にわかりやすく、誤解を生まない文章表現を身に付けさせる。